

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101610		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっとくりやがわ		
所在地	盛岡市厨川2丁目16-16		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370101610-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370101610-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成26年1月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとくりやがわ」は一棟9名の家です。ゆとりのある時間と住居の中で、くつろぎながらその人らしい生活を送れる事を目的として、「ほっとできる」安らぎのある、看取りを含めたトータルなサービスを提供して、入所者1人ひとりの生活リズムを大切に、温かい生活を送れるように援助します。岩手高齢協の理念である「元気な高齢者をもっと元気に」「寝たきりにならない、しない」を合言葉に、できるだけ自立支援を目的として、その人らしさを支えています。施設からは周りの風景がよく、春に桜の花、夏には緑豊か、秋には栗拾いなどでき、四季を楽しめる環境になっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩手高齢協の理念に基づき「寝たきりにしない」「出来る事を継続して、もっと元気に」を合言葉に職員が一丸となって、取り組みをしている。経験豊富な職員と日の浅い職員が意見を出し合い、教え合うよい関係が築かれている。入居者、家族との関係も良好で、お互いに包み隠さず話し合い、家族のホームに対する信頼感是非常に高い。家族に郵送している、1ヶ月の体調管理表は、遠方の家族にとっては、安心につながる情報である。職員の学ぶ意欲は高く、組合の理解もあり、職員の研修、福利厚生にも配慮が行き届いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のミーティング、カンファレンス朝昼の申し送りを通じて職員間で意見を出し合い、理念の共有を図り利用者が和めるよう取り組んでいる。	組合の理念を柱に、平成18年にホーム独自の理念を全職員で作成し、日々のケアに活かしている。入居者との対応で困った時や、わからない時には話し合い、理念に沿って、入居者の立場に立った対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの敷地内に畑がありやさしい作りを行っており地域の住民にも興味を持っていただいている。利用者も一緒になって収穫する楽しみも共有している。	自治会に加入し、行事(草取り)に参加をしている。近所の方が季節のお花を届けてくれたり、盛岡大学のコーラス部が訪問している。保育園との交流再開も検討している。	地域で行われている「お茶会」は曜日が合わず、なかなか参加が出来ていない状況がある。来訪した方をお茶に誘ったり、ホームの文化祭に「チラシ」を配って勧誘する等、来て頂く方法を工夫し、交流の機会を作ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議の場を活用し、毎回テーマを設けて保健、医療、福祉などの情報を発信し、包括、民生委員を通じて地域での問題点や困りごとの情報を収集している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の生活状況の説明、施設の現状や感染症、防災面のリスクマネジメント対応など話し合い、その他意見を頂戴しながら、入居者の安心、安全を念頭に入れた施設運営を実施している。	会議案内に、話し合いのテーマをお知らせしている。家族からは現状を維持して欲しい等の意見が出ている。委員からは、地区の行事等について情報を頂いたり、避難訓練時には協力をして頂いている。議事録は詳しく記録されており、わかりやすい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は長崎のGH火災から特に防災面で情報の提供及び、消防署と盛岡市職員立会いの下、意見交換が出来た。スプリンクラー設置の補助の話も頂き検討しています。	生保利用者の方もおり、市役所へは年5~6回出向き申請等の手続きをしている。メール、電話で密に連携をとっているも、包括支援センターが行政の代行をしているが、行政からの参加も望みたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員を配置している。できる限り拘束しないケアに取り組んでいるが2名に関しては就寝時のみ家族の了解を取り柵を使用している。更に言葉使いにも細心の注意を払っている。	施設長が推進委員をしていることもあり、職員に指導が行き届いている。家族と話し合いを重ねて、落下防止のために夜間のみベット柵を使用して、安全を確保している入居者が2名いる。不適切な言葉遣い等はその場で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は確認できていない。入浴及び更衣介助の際には身体、皮膚状態を観察し変化がないか確認している。ケアに関しても無理時しないケアに努めている。スタッフには虐待防止等の資料を読むよう提示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名盛岡市社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を活用し、支援員と連携を取りながら援助に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時などご家族の不安など払拭するよう十分な説明と同意をモットーにしている。契約する時には、お互いに契約等を読み合い理解及び納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で利用者の声や表情を汲み取り、必要なものなどは家族様にお願いし受け入れ利用者サービスを行い、推進会議運営では家族様の意見や要望も大切にし運営に反映できるようにしている。	家族からは「お任せします」がほとんどで、苦情等はない。(家族からは)入居者が今まで行って来たことを今後も継続「して」「させて」欲しいとの声がある。(調理、茶碗拭きなど)。行事等で家族同士が交流をしており、家族同士もいい関係が持たれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は組合の役員として理事会に参加していて、スタッフの意見などミーティングで話し合った事など、本部に対しても必要事項を報告し、意見など迅速に相談できる体制になっている。	待遇面の改善(組合で検討中)で、腐食したスロープ手すり除去、電磁調理器の修理と身近な意見が出ており、対応可能なところから対処している。職員は気付きを声にし、組合(法人)も意見を聞き入れる体制が確立されており、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年も環境整備の一環としてIHを交換し調理環境を整え仕事の効率を図った。スタッフの処遇に関しては、公的補助の処遇改善加算を活用し、昇給を実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修会などは勤務調整を行い内外を問わず参加している。認知症実践者及び管理者研修等など常勤、補常勤問わず参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は10月に盛岡で日本認知症GH岩手大会があり、参加して色々なケアの仕方など情報を収集し職員の資質の向上に結び付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度の入所者は事前に居宅のケアマネ、家族同伴で話し合いをして、十分な説明と同意をもらって入所に結び付けた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事を払拭でききるよう常に傾聴できる体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネと連携し利用者の情報収集し、利用者の思いや家族の希望など考慮しながらアセスメントを実施しケアに結び付けている。本人、家族のホーム見学も積極的に受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場をリビングとし皆がそろって手伝いをしたり、会話したりして和むよう話題作りをしながら信頼関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議や行事を通じて連絡を取り利用者に関わりを持っていただけよう促している。又家族とは共に支えるを念頭に連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、友人などの面会に制限等は付けず逆に来ていただけるよう奨励している。お互い良い関係を保てるよう電話や手紙の取り次ぎを行っている。	姉妹や、知人が来訪して交流をしたり、手紙や、電話を取り次いだり、墓参りの支援も行っている。家族からの依頼で、寝具や衣類の買い物を入居者と職員が一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の希望など尊重しながら他の利用者とりビングで過ごせるよう支援に努めている。スタッフはお互い良好な関係が保てるよう援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族には、いつでも困りごとがあったら連絡をくださいと話をしている。本年度退所家族は組合員を継続していただいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族との関わりの中で要望等を引出し、スタッフ間で話し合ったり、生活に支障がある入所者に関しては、アセスメントを活用しプランを作成している。	本人から聞き取りが難しい時には、家族や知人から聞いて、思いや意向の把握に繋げている。料理の得意な入居者からは、野菜の皮むきなどを職員が教えていただくこともあり、申し送り時に職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や利用者との会話から生活歴など聞いて今までの生活を継続できるよう配慮に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が発する言動や行動観察に努め、必要時はチャート記載やノートに書き留め、行動及び言動をスタッフ間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態や家族の要望などを聞き出し、主治医や訪問看護の意見を基にミーティングを行いスタッフの意見を取り入れプランの作成や変更を行なっている。	3ヶ月ごとのプラン作成には、利用者・家族の要望を重視して(このままホームで生活をして欲しい)担当を中心に医師、看護師の意見を参考に職員全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活状況や言動など、チャートに記載しカンファレンス等で話し合い、必要時、再アセスメントを実施しプランの作成や変更を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要介護度の重度化で今年は昨年より1回行事で外出する機会が少なかった。又本年度は保育園児との交流は出来なかったが、新たに第一学院高等学校と交流する事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進会議を開催することで少しずつ地域とのかかわりが増えてきている。本年は自治会活動ふれあいサロンにも参加要請がきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、訪問看護とは医療連携を取っており、月1回の往診、毎週火曜日の健康チェックを行い主治医に報告が行っている。緊急時には24時間対応な体制を取っている。	家族による通院介助が、出来ない入居者もあることから、主治医(かかりつけ医)の往診(月1回)と週1回の訪問看護を行っている。家族の同意を得て、全員がホーム主治医に変更をしている。看護師から体調チェック表を医師に情報として伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とは24時間いつでも相談できるような体制及び契約をしている。毎週火曜日来訪し、1週間の出来事を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は面会に行くようにしている。入院先の主治医や家族通じて相談や調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制、看取りに関する指針を策定しており、本人及び家族の希望を取り入れ看取りを実施している。本年度も10月に看取りを行った。	開所以来5名の方の看取りを行っている。契約時に重度化、看取りについて説明をして、同意を得ているが、状況に変化がある時には、再度話し合いをしている。思い出作りに、日々の様子をDVDに録画して記録として家族に送っている。重度化、看取りの指針が策定されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の意見を基にしてカンファレンスを開催し注意事項など確認合って急変に備えている。2月22日に救急救命講習を開催予定になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は火災を想定し避難訓練を2回行うよう計画立案している。訓練の際は家族や近隣の住民にも協力していただいている。2回目の訓練は3月に夜間ミニ訓練想定している。	9月、3月(夜間想定)避難訓練を実施している。消防署が近く、通報後1分程で消防車が到着する。訓練時には近所の住民の協力が得られている。震災時には消防士3名が様子を見に来てくれた。2日分の水、食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導の時は他の利用者に聞こえないよう配慮した声掛け誘導、言葉使いに注意し入浴の際はプライバシー保護の観点からカーテンなど使用している。	居室は開け放しにしない。居室ごとにセンサー音を変えてあり、職員は熟知している。言葉遣い、声の大きさに気をつけ、対応している。訪問時トイレ誘導の声掛けには、全く気がつかないほど自然に行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立って声掛けし、その人に合ったあったケアを提供している。無理強いしないよう本人の意に沿ったケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や訴えを受け入れ、その人のペースに合わせたケアを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては本人の希望を取り入れながら清潔感をモットーにして更衣介助にあたっている。行事の時などは家族と連絡を取り合って着用する衣類を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で嗜好を聞き出しメニューに取り入れている。利用者の問題点を考慮(嚥下、咀嚼)し本人に合った食事を提供している。盛り付けや後始末など利用者で行うよう心掛けている。	体調により、ミキサー食の方が4名、刻み、普通と本人に合わせている。常に何が食べたいかを聞き、本人の希望を叶えている。行事の時には外注したお弁当を食べることもある。食材の買い出しもするが、週3回八百屋さんが来て、好きなものを買ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供するよう心掛けている。食事チェック表を活用し、1日の水分、食事摂取量を記載し体調管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは実施している。自分のできない利用者に対しても毎回介助している。義歯洗浄も就寝前に必ず行っている。本年も歯科検診を行い治療に結びつけた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら適宜排泄誘導を実施している。チェックすることで個々の排泄パターンを把握したり、時間間隔での誘導に役立てている。	全介助が必要な入居者は1名で、他の方は声掛け・誘導により対応している。出来るだけトイレでの排泄を継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すため植物繊維の摂取やヨーグルトを毎日提供している。排便困難者には主治医と相談し定期的の下剤を投与して排便に関わる疾病の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の前に声掛けを行い入浴を促している。本人の希望する温度にしたりして、無理強いないケアに努めている。又希望があれば同姓介助も実施している。	週2回以上は入浴することになっている。毎朝全員に清拭を行い、清潔を保つように支援している。入浴は早番職員が担当し、3~4名を支援している。気分を変えることでスムーズに入浴できるように配慮しているが、無理強いないように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて無理強いない入床介助に努めている。就寝の際は更衣介助を実施し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々及び全員の薬のファイルを作成し確認投与できるようにして誤薬を防いでいる。薬剤師と連携し変調時に対応できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを通じて、個々に役割を持っていただいている。(家事分担など)壁面飾りなどは利用者と一緒に作成している。天気の良い日などは買い物、散歩などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の様子や希望があった場合などは近隣を散歩し気分転換を図っている。年間行事のスケジュールに利用者全員で外出できる機会を設けている。	ホームの周囲は坂道が多いため、冬時期は積雪があれば、徒歩での外出は難しい状況ではあるが、そうした場合は、ホームの中で体操をしたり、手伝い等をし、体を動かしている。雪のない時期には、坂道をゆっくり散歩したり、コンビニエンスストアまで買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人のみ金銭を自己管理している。希望などあった場合援助を行っている。他の利用者に関しては家族の了解を取った上で立て替え払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や兄弟及び友人などからの電話など、取り次いだり又面会など促したり積極的に関わりを持つようにしている。手紙など来た際は時に本人の了承のもと開封する場合がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染防止を念頭に入れた環境整備また利用者が落ち着くよう利用者が作成した壁面飾りなど施し居心地の良い環境を提供している。	ログハウスのように、太い梁、斜交いが、落ち着いた共有空間である。対面キッチンで入居者の様子を見ながら関わりが持てる。ゆったりとしたソファが置かれ、南側窓から明るい日差しと、景色が良い。共同作品の貼り絵があり、ミズキ飾りに願いを書いた短冊がついている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活を送っていても利用者本人が居心地がよく、ほっとできる空間を提供できるように配慮している。食事の席に関しても定期的に交換し気持の固定化を防いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、利用者本人が落ち着いた生活を送れるよう、思い出の品物や馴染みの物を持ち込んでいただけるよう話を勧める	持ち込みは多くはなく、写真、ぬいぐるみ、カレンダー、椅子などである。衣類はハンガー掛け、引き出し収納と個性がある。整然として清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は自力で独歩できるように、廊下などに手すりを設置整備している。又、トイレなどにも設置し事故が起きないようにしている。		